

盲導犬と外出 理解半ば

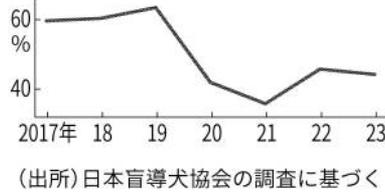
利用者の44%、「受け入れ拒否」経験

来月から 事業者に配慮義務

視覚障害者が利用する盲導犬の受け入れ拡大に向け業界団体が民間事業者の研修を進めている。衛生管理を含め盲導犬への理解は半ばで、飲食店やホテルでの受け入れ拒否を経験した利用者はなお半数近い。障害者への「合理的な配慮」を事業者に義務づける改正障害者差別解消法が4月1日に施行されるなか、浸透を図る動きが広がる。

「盲導犬は特別に訓練され、定期的なブラッシングやシャンプーで清潔

受入拒否を経験した人の割合



(出所)日本盲導犬協会の調査に基づく



日本盲導犬協会などが主催した盲導犬利用者受け入れの研修(1月、千葉県館山市)

にしています。千葉県館山市で1月下旬、宿泊施設の従業員らを対象に盲導犬受け入れの研修が開かれた。近郊のホテルや旅館から18人が参加し、身体障害者補助犬法で同伴が認められている点などを学んだ。

研修は千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合と日本盲導犬協会が主催。盲導犬の利用者とともにホテルのチェックインやレ

ス特朗への入店、客室への案内の流れを確かめた。

南房総市内のホテルのレストランで働く江波戸正之さん(53)は初めて視覚障害がある人に付き添って歩いた。「歩く速度の調整が難しかったが、必要な説明や手伝いが分かった。ほかのスタッフにも共有して受け入れの体制を整えたい」と話した。

られた。従来は努力義務だったが、24年4月の施行後は違反を繰り返して改善がみられず、行政に虚偽報告をした場合などが過料の対象となる。

組合による研修は法施行を見据え、適切な対応を徹底する狙いがある。武川豊事務局長は「法施行をきっかけに受け入れが当然だということを浸透させたい」と説明する。今後同様の研修を県内で予定しているという。

首都圏で医療や介護施設を運営する「戸田中央メディカルケアグループ」(埼玉県戸田市)も23年末、日本盲導犬協会による研修を実施した。担当者は「衛生面や患者らの理解が得られる不安があったが、研修を通して補助犬の訓練や清潔さを知り、職員らが受け入れに前向きになった」と話す。

割合は17、19年に60%前後で推移し、21年は新型コロナウイルスの流行で35%に減ったものの、再び増えた。

受け入れ拒否を懸念して外出そのものを避ける人や、受け入れを拒まない店だけを選ぶ盲導犬の利用者も少なくないという。

背景には盲導犬への理解不足がある。協会が一般市民約1000人を対象として23年に実施した意識調査によると、盲導犬の衛生管理に不安を感じると答えた人は17・4%。84%は盲導犬利用者

同協会職員で自身も利用者の押野まゆさんは「補助犬の受け入れ拒否を拒むことと同じ。まずは『お手伝いしましょうか』と声をかけてほしい。そうすれば利用者も何をどう手伝ってほしいか伝えることができる」と話す。

厚生労働省は3月27日、小学生らを対象にイラストなどで補助犬についてオンラインで学べる教材を作ったと発表した。4月1日から利用できるという。今後もホームページやイベントを通じて事業者や一般市民の

盲導犬への理解を深めていくとしている。

(小川祐佳)